

AFTERNOON TEA

日本大学松戸歯学部生理学講座

加藤 治

緊張感を楽しもう。

突然ですが、最近、足が震えるほど緊張したことってありますか？最近の私の場合はまさに今。こんな原稿を送信してしまっているのかと葛藤する今なのです。その原因はさかのぼること一ヶ月、同じ研究室のまさに隣に座っている福島先生から「Afternoon Tea」の執筆依頼を受けたとき、何も考えず「いいよ。」と二つ返事してしまったのがことの始まりです。今思えば「ちかっ！」っと突っ込みを入れたいところですが、「後悔先に立たず」というか、研究のお話は毛頭するつもりはないので、OKとしましょう。

冗談はさておき、話を元に戻しましょう。では、過去に緊張したときってどんな時か？高校生のころは野球にのめり込み、今思えば、たかが練習試合でもバッターボックスで足が震えるのが抑えられなかったあの日。勇気を振り絞って好きな女の子の家に電話し、ご両親がでて真白になったあの時。大学院生や卒業したばかりのころは学会発表でも、部屋のミーティングでさえも緊張していた。そんなあの日のこと今でもよく覚えています。

ところがふと考えてみると、最近では学会発表でも講義でもいい意味で緊張することなく行っていませんか？そう、緊張するってことって、もうあまりないのです。「おまえは仕事に緊張感を持ってないのか！」とおっしゃる先生方もいらっしゃるかと思います。仕事以外にもいい緊張感があったらいいよね、というのが今回の提案なのです。そうすると仕事もうまくいく気がします。だよね？

では、仕事以外の緊張感ってどうですか？私はこのところ草野球に精を出しているのですが、先日、9回裏2アウトランナー2、3塁という場面に出くわしました。セカンドの守備につき、こっち



買っちゃった！

に打たないでと神に祈りました。たまに行く友人とのゴルフコンペ、3番ショートホールでワンオンに成功し、残り2.5mのバーディーパット。などなど、これらもまたいい緊張感ではありました。でも、なかなか巡り会わないのです。そんないい場面には。

そこで、最近たまらなくいい緊張感を手軽に味わうことができるようになったのでちょっと紹介したいと思います。それは、ボウリングなのです。ボウリング？「おまえは遅咲きの団塊世代か！」という声も聞こえそうですが、これがいいんです。

きっかけはなんとなく参加することになった教職員の大会。これまでの平均は150くらいとボウリングを楽しむことができました。ところが大会当日、周りの雰囲気にもまれ、なんと100というスコアをたたき出してしまったのです。これは初めてボウリング場に行った時と同じくらいの低いスコアです。恥ずかしくて、悔しくて、後日、ボウリング場に練習しに行きました。すると、マイナースポーツとばかり思っていたボウリング場が老若男女でいっぱい。しかもみんな上手い。これには正直、驚きました。

そんな中、ボールを投げると、いつにない緊張感を感じるのです。あのピンが1本残ったときの

緊張感。ここでスベアを出せば200を超えるというときの緊張感。板目1枚分を投げ分けようと、アプローチを始める緊張感。たまんないっす！

ある人曰く。「その緊張感がボウリングの醍醐味なのだ。」とか。さらにボウリングって野球などの団体競技と違って一人でもできるし、ゴルフほどお金もかからない。なにより年老いてからも若者に勝つことのできる数少ないスポーツなのです。球を転がすだけと思っているあなた。一人で行くなんて恥ずかしいと思っているきみ。たいした運動にもならんわとつぶやいた諸君。三度ボウリング場に足を運んでみてはいかがかな。気がつくだろう。意外にも一人で楽しんでいる方が多いこ

とに。そして3ゲームも投げると、結構な量の汗をかき、腕がパンパンになっていることに。ちょっとやって1時間たらず、いい汗かいて、いい緊張感と清涼感を味わえる手軽なスポーツ、ボウリング。これ、お勧めです。

先日の大会でのこと。小太りで、髪は薄く、メガネに大酒飲みというマンガで描けそうな知り合いの課長さんがストライクを連発していた。残念ながらパーフェクトにはならなかったが、会場の期待と緊張を独り占めしていた。

次の日、いつもの課長がなぜだか少しかっこよくみえた。

滋賀医科大学生理学講座

小山 なつ

不思議の国のアフタヌーン ティー

知らない間に「痛みと鎮痛の研究」の世界に迷い込んでしまった、滋賀医科大学の小山と申します。主に動物を対象とした実験をしていて、動物は「痛い！」とは言ってくれないので、正確には「侵害受容」の研究と言うべきなのですが、……。同じく「痛み」に関連する研究をされている佐賀大学医学部の藤田亜美先生、いや藤田亜美さん(このAfternoon Teaでは、「さん」付けすることになっているらしいです!)からバトンを受け取りました。50音順に「旧『さ』がいかだいがく」から「『し』がいかだいがく」へとバトンが渡ったわけです。学会ではいつもご研究のポイントをわかりやすく解説してくださる藤田さんは、時に顔色も変えずに、「突っ込んでほしいの?」と思わせるようなギャグを飛ばされたりして、お茶目な一面を秘めておられます。藤田さんと一緒にして良いかと迷ったのですが、日本生理学雑誌に巻頭言があった時代には、生理学会の先生方は「霞だけ食べて、難しいことばかり考えている仙人」のようで、私とは住む世界が違う仙人だと決めつけてい

ました。このAfternoon Teaには感銘を受けるエピソードが書かれていたりもするのですが、「おもしろい奴もいるんじゃない!」と思えたりして、本業界の市民に対する意識が少し変わりました。

Afternoon Teaと言えば、一番に思い浮かぶのは「不思議の国のアリス」です。3月ウサギの家の庭で、何でもない日を祝う、マッドハッターとのティーパーティーはいつまでたっても終わらない。時間はいつも6時なので、ハイ・ティーの時間になっているのですが。私はディズニー絵本やディズニー映画で育った世代なので、アリスも身近な存在でした。しかし実は相当奥が深い話のようですね。皆様は、2010年には2つのアリスのブームがあったことを認識されておられるでしょうか。ジョニー・デップがマッドハッターを演じた「Alice in Wonderland」での19才のアリスは、戦う女性でした。ワンダーランドで赤の女王と戦って世界を救い、現実の世界に戻ると、求婚者を振り切り、ビジネスの世界に飛び込むために船で旅立っていく。しかし夢ばかり見ている9才のアリスが「私、おかしくなったの?」と尋ねると、アリスのお父さんは「おかしくなったようだね。偉い人はみんなそんなになるんだよ。」と言った、

冒頭のシーンも印象深かったです。

もう一つのアリスのブームは、懐中時計のチェーンが揺れる絵本も読める iPad の発売ですね。以前から超軽量の Mac の発売を心待ちにしていたので、長い列に並ぶこともなく、発売日に運良く iPad を手に入れることができました。老眼の人にも、方向音痴の人にも、iPad はやさしくおしゃれなティールームまで案内してくれます。しかし期待が大きかったため、iPad はパソコンとは似て非なる物であるということが購入直後にわかり、非常にながかりしました。最後に MacBook を購入してから 10 年も経っていないのに、私の MacBook (Os: タイガー←寅年発売ではない。) は iPad には対応できないことを知り、スノー・レパードの Mac を購入せざるを得ませんでした。すっかり、アップルの戦略にはまってしまったのです。しかしお陰様で、直感的に使える iPad の恩恵にあずかされただけではなく、最近のパソコン事

情を垣間見ることができ、Mac 自体の使い方がすっかり変わりました。懐中時計を持ったウサギを追いかけて穴に落ちたのではなく、高い青空に浮かぶクラウドを利用して、複数の Mac や iPad を同期させることもでき、快適な環境となりました。藤田さんとお茶した最近の学会でも、抄録集は冊子版からインターネット版に移行され、iPad 版の検索プログラムもできていました。今後は iPad でプレゼンする人も増え、会場内ではホットな情報もつぶやかれることでしょう。私がまどろんでいる間に、着実に時は流れていくのです。

2011 年は卯年、ウサギが登場する前に、アリス(?) は時代を変え始めたようです。しかし暖かい陽が差す午後には、何でもない日のティーパーティー (←政治とは無関係の) を祝いつつ、運命に身を任せたいというのが本音です。窓の外ではやっとな、ヒポクラテスの木が色づき始めました。

鳥取大学医学部統合生理学分野

木場 智史

“卒論”

奈良女子大学の芝崎学先生からご指名を受けました。芝崎先生は、私が学生時代に直接に指導をくださった林直亨先生 (九州大学) と同じ年齢で親しくされており、その縁で私に何かと目をかけてくださっています。また奈良に勉強をさせて頂きにお邪魔させてください。

出身は神戸、大学は大阪、学位を取得して米国にいた後、2009 年 7 月に、故郷神戸と同様に山と海とが近い鳥取県米子市にある鳥取大学医学部に来ました。山陰は豊富な自然と安くて美味しい食事 (ただし車社会なので、お酒を飲んで代行タクシーを利用すると値段的には関西と変わらない。) がウリでしょう。山陰初心者と言っている時期ではなく、研究も加速させなければいけない頃でもありますが、研究環境のセットアップも含め、なかなか悪戦苦闘中です。他に悪戦苦闘

していることといえば、今年、初めて学生の卒業論文作成に関わっているということがあります。

本学医学部には、医師を目指す医学科の他に、看護師・臨床検査技師を目指す保健学科、そしてバイオ分野での研究者を養成する生命科学科があります。私は MD ではないですが、医学科に所属しています。本学医学科の学部生の多くは、研究自体に興味を持って実験室に入り浸りになるほどまでには至らないようですし、大学院に入っても、医師免許をもった大学院生は基礎系のグループにはなかなか参加してくれないようです。一方で、保健学科、生命科学科には、研究に興味を持つのが持たなからうが、四回生時に卒業研究が単位としてあります。関係の先生方をお願いして、保健学科看護学専攻から KY 君が、生命科学科から RW 君が、私が取り組んでいる神経性の循環調節に関する研究に興味を持ち、今年度私と実験をしています。



RW 君の卒論実験追い込みに活を入れる。

さて、卒論実験が始まってみて、想定外のことがたくさんあります。私が自分の卒論に取り組んだのがちょうど十年前、一応それほど年齢が違っているつもりでもないですし、彼らが直面するであろう苦難やかも予想していたつもりではいましたが、進捗は未熟な私が想像していたものとだいぶ違うものになるようです。

KY 君は年度末に国家試験があるため、夏休みの二週間ほど、早朝から深夜までどっぷり実験三昧の日々を経て、11月現在、国試の勉強と平行させて卒論の文章書きを頑張っています。RW 君は今が卒論データ取得の追い込み時期です。RW 君は、夏前から私が手を動かしてやっている in vivo

実験と連動したテーマに取り組んでいるので、私の実験進捗があっちにいたりこっちにいたりする度に振り回されているようですが、仮に文句があろうとも口にはせず（口にはさせず、とも。分からんから研究をやるねん、分かってることは研究せん、と言いついて聞かせています）、奮闘しています。最近、実験者のみが実感できるデータそのものが教えてくれることを根拠に、研究に関する自己主張のようなものを見せ始めています。来春には社会に出る予定の彼らが卒業後にサイエンスに関わることはないかもしれませんが、卒論という一つの形にまとめる経験が彼らの有形・無形での糧となることを期待しています。卒業時に、サイエンスは楽しかったかを聞いてみたいと思います。

私の責務は、彼らのこのような時間と労力を形にすること、すなわち後々に残るように publish させることです。この11月にある中国四国の地方会でKY 君が取得したデータも報告できそうなことは、嬉しいことです。学会大会や雑誌上で、彼らの頑張りを多くの方々に見ていただけるように、地に足をつけつつ研究を前に前に推進させていくとともに、研究の上昇気流を巻き上げることが出来るよう、研究に邁進していきたいと思っています。